謹　啓　晩秋の候　皆様におかれましてはますますご清祥のことと
お喜び申し上げます。

さて、本日の定時制創立五十周年記念式典並びに祝賀会に
際しましては、ご多用中にもかかわらず御臨席を賜り、心より
感謝申し上げます。

学灯拓魂の精神のもと、今後も生徒・教職員一同努力いたす
所存でございます。ここに謹んでお礼を申し上げますとともに、
今後とも御指導、御高配を賜りますようお願い申し上げます。

謹　白

平成三十年十一月二日

青森県立八戸工業高等学校定時制
創立五十周年記念事業実行委員会
委員長　上　柿　富　久　夫

青森県立八戸工業高等学校
校長　瀬　川　浩

来賓各位

青森県立八戸工業高等学校 定時制

創立50周年記念式典

日　時　平成30年11月2日（金）　午後3時

場　所　青森県立八戸工業高等学校　第一体育館

青森県立八戸工業高等学校定時制

創立50周年記念事業実行委員会

式　次　第

1　修　　礼

2　開式のことば

3　国　　歌

4　校 長 式 辞

5　感謝状贈呈

6　記念事業報告

7　来 賓 祝 辞

青森県知事	三　村　申　吾様
青森県議会議長	熊　谷　雄　一様
青森県教育委員会委員	町　田　直　子様
八 戸 市 長	小　林　　眞様

8　生徒よろこびのことば

定時制生徒会長	山　田　健　太

9　校 歌 斉 唱

10　閉式のことば

11　修　　礼

受　賞　者（敬称略）

【歴　代　校　長】

第１８代校長（平成 17 年度～ 20 年度）	佐　藤　和　志
第１９代校長（平成 21 年度～ 23 年度）	髙　松　　彰
第２０代校長（平成 24 年度～ 27 年度）	赤　坂　裕一郎
第２１代校長（平成 28 年度）	一　戸　利　則
第２２代校長（平成 29 年度）	髙　谷　　悟

【歴代ＥＴＡ会長】

第3代 ETA 会長	河原木　督　悦

【永年勤続教職員】

鶴　飼　千　年

野　呂　勝　美

髙　橋　秀　一

青森県立八戸工業高等学校　校歌

1．晴れよ。陸奥。青々と
山脈　大野　わたつみも、
輝けり。たゞに一色。
暁の光りはおよぶ。
大路 八街 塔 甍
またそゝり立つ學校や
若々し そこに勤しむ。
みづみづし わが肩に照る

2．曇れ。日本。くもるとも
姑し天雲霽れむ間ぞ。
眞晝空片かげりして、
馬淵川そよぎ澄み行く。
地方といへども最頂岬
青森縣のよき都市に
生まれ來し惠みの深さ。
このほこり 身もてこたへむ

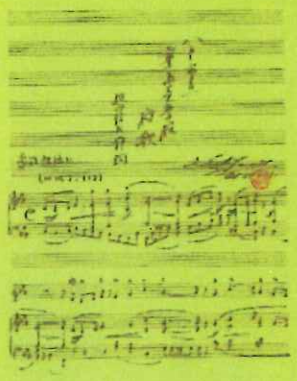
3．しづかに暮るゝ夜の燈に
けふの一日を省みむ。
怠らず 學問せしか。
はげみつゝ技能か錬りし
春 かぐはしくよき希望
ここに廻りて 來む日まで、
努めむよ。學生として、
すがすがし 若人として

日　程

◆式　典　15:00～16:00　青森県立八戸工業高等学校第一体育館

◆祝賀会　17:00～　八戸プラザホテル　アーバンホール

青森県立八戸工業高等学校の校歌



校歌の原稿

昭和24年7月、全国高校野球青森県大会決勝。八戸市立工業高等学校は青森第一高校（現在の青森北高校）を破り、初の栄冠に輝きました。

「八戸市立工業高等学校」と改称して1年。創立間もない母校の名を知らしめた選手の活躍にスタンドの応援団は歓喜しました。

しかし、高らかに歌うはずの「校歌」がなく、スタンドは重苦しい雰囲気に包まれました。やむをえず、教職員と生徒は無念さをこらえて「応援歌」を歌いました。このときの無念さから、学校を挙げて「校歌制定運動」が起こりました。

折口 信夫
1887年（明治20年）-1953年（昭和28年）
日本の民俗学者、国文学者、国語学者であり、釈迢空（しゃく・ちょうくう）と号した詩人・歌人でもあった。
彼の成し遂げた研究は「折口学」と総称されている。柳田國男の高弟として民俗学の基礎を築いた。
自らの額の青痣をもじって、国造渓（あい・えんけい）と名乗ったこともある。

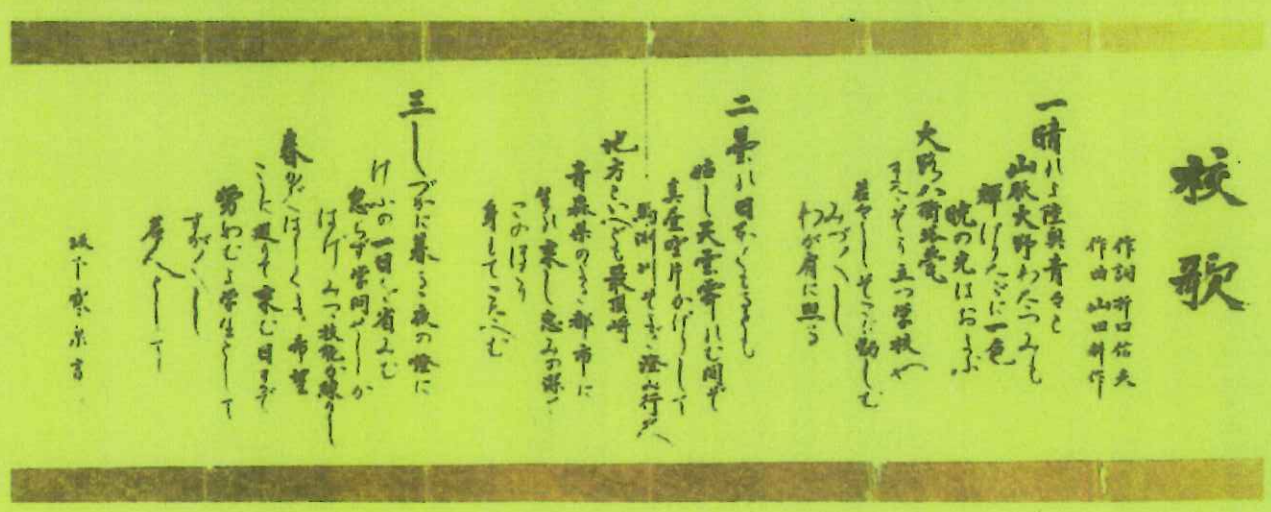
「日本一の校歌にしよう、他校より抜きんでた校歌を、日本屈指の著名人に作ってもらおう」ということになりました。当時国語科教員として教鞭をとっていた坂本栄治先生が、恩師の折口信夫先生（右写真）に作詞を依頼しました。当時の校長先生方が折口先生のご自宅に伺い、八戸工業高校の状況を訴え、校歌作成の支援を懇願しました。

折口先生は、**「戦争に敗れた日本は、いま国民すべてが精神的に落ち込んでいる。その中でも次の時代を担うべき若者たちには特に気力を奮い起こさせねばならぬ。私も自らを励ましてお手伝いしましょう。」**と静かな口調で話されました。

山田 耕筰
1886年（明治19年）-1965年（昭和40年）
日本の作曲家、指揮者。山田耕作としても知られる。日本語の抑揚を活かすメロディーで多くの作品を残した。
日本初の管弦楽団を造るなど日本において西洋音楽の普及に努めた。
大学や高校の校歌の作曲も多く、東北内では本校を始め、盛岡工業高校、秋田高校、能代工業高校、花輪高等女学校、水沢工業高校、湯本高校等がある。

2年余経過し、待望の校歌の原稿が学校に届きました。作曲は、折口先生からのお声がかりにより、**「赤とんぼ」**等の作曲で知られる、山田耕筰先生（左写真）が引き受けてくださいました。

昭和26年11月、待望の「校歌」が完成しました。



校歌

作詞 折口信夫
作曲 山田耕作

一 晴れよ陸奥青々と
山脈大野わたつみも
輝けりたゞに一色
晩の光はおごそかに
大陸八荷瑞穂
まえ、そう立つ学校や
若々しそこに動しむ
みづのくしわが肩に思う

二 暴れ日ふくとも
嵐し天雲雪れむ間も
真昼空月かげしして
馬淵川せき流山行く
地方もいくも長嶺峰
青森県のうち都市に
学び来し忍みの跡
このほう身してこたへむ

三 しづかに暮るる夜の燈に
けふの一日を省みむ
忍ぶず学問のしか
はげみつ技能を練り
春来へほーくも希望
こゝに建て来む日まで
勞わじよ学生よ
すべし
若人よ

坂下宗吉